

くまやく健康だより

発行：一般社団法人 熊谷薬剤師会

市内全小・中学校配布 — 2022年 5月 1日

第59号

「がん」について知っておこう Part 1

地球に生物が誕生したのは約38億年前の100℃の海*

地球が生まれたのが46億年前、40億年前には海が出来ていたと考えられる証拠が存在しています。海の誕生によって、水を溶媒とした化学反応が可能となり、そして有機化合物が作られるようになったのです。その頃の生物は原核細胞から成り立つ原核生物であり、真核生物に進化するまで約20億年もかかりました。まだ、単細胞生物でしたから、細胞は自由に分裂・増殖をしていました。

このような営みが約10億年以上も繰り返され、やっと約5億年前に人間や動物のようにたくさんの細胞が集まった多細胞生物が出現しました。

*生命の起源は約40億年前との研究論文も発表されています。

私たちの体は約37兆個の細胞からできているとされましたが、それらの細胞は毎日毎日、体の設計図にあたる遺伝子(DNA)の指示に従って細胞分裂を繰り返して新しくなってゆきます。細胞分裂の回数が多くなれば、時には変異した細胞が生まれてしまうことがあります。通常は修復・排除することにより正常に保たれています。

ところがこの能力以上にDNAが傷ついたり、DNAを複製する時にミスコピーがおきると、異常な細胞が生まれ、増加して大きくなっていきます。その中で悪性のものを「がん」といいます。一般には平仮名で「がん」と表記しますが、興味がある人は語源なども調べてみましょう。

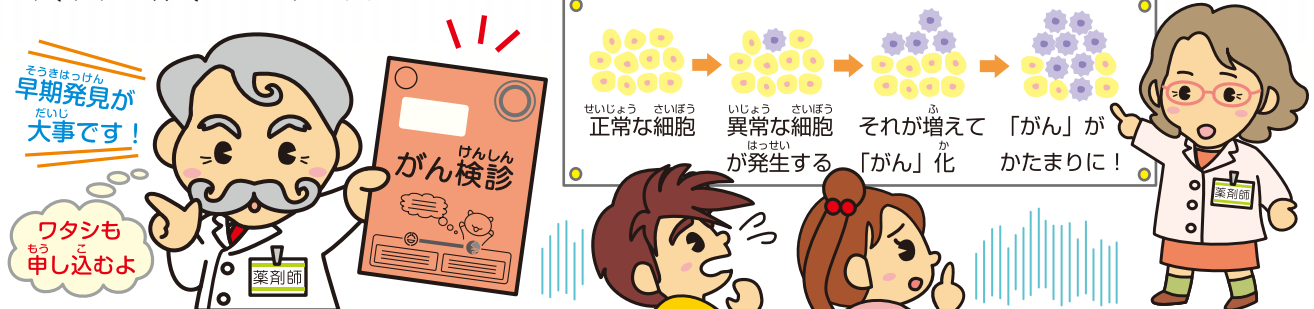
「がん」が進行して自覚症状が出るまで

単細胞生物から進化した多細胞生物を構成している細胞も、もともと備わっている自由に分裂・増殖する能力はありますから、遺伝子の指令通りにはいかなくなると、普通の細胞から「がん細胞(がんの芽)」に変わり増殖してゆきます。

1つのがん細胞が変異し1cmほどの大きさになるには約10～20年かかり、「がん検診」で発見できるようになります。その後は急速に1～2年で2cmほどになり、自覚症状も出現してきます。

症状がなくても検診を受けることが大切なのです。

「がん」の原因には生活習慣(食事の偏り・運動不足・大人の場合は喫煙・受動喫煙など)・細菌やウイルス感染・遺伝的素因等がありますが、原因がわからない「がん」もありますので、「がん」は年を重ねると誰もが成りうる病気でもあります。



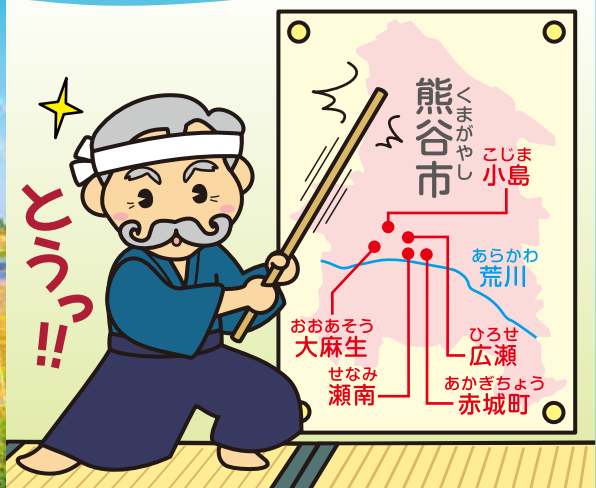
くまがや ちめい あじ 熊谷の地名を味わう

— 荒川リバーサイド 編 —

おおあそう ひろせ こじま せなみ あかぎちよう
大麻生・広瀬・小島・瀬南・赤城町



荒川の水辺風景 (大麻生・広瀬付近)



◆ 荒川と地名

熊谷市の中央を流れる荒川は、地域のひと々に水の恵みを与えてきました。その一方で、歴史上、荒川は文字と同じく「荒れる川」として知られ、流路を変えることもあり、洪水などを引き起こしました。この荒川の流れは、地域の地名にも影響し、現在に受け継がれています。

川の両岸に着目すると、下流の方角を向いた時の右側を「右岸」「左側を「左岸」と呼びます。荒川の左岸に位置する大麻生は、川辺の豊かな自然が残り、古くから秩父と熊谷を結ぶ街道と鉄道があります。

◆ 大麻生

大麻生の地名は、「オオアソ」と語尾を省略して読む場合があるほか、地元では「オアソ」という呼称も伝承されています。この「アソ」とは水の浅い場所や湿地の意味があり、荒川流域の広大な低湿地という特色から、この地名が生まれたと推測されます。「アソ」の「麻生」という漢字の表記は当て字であり、麻が生えていた

ことに由来する地名ではないと考えられています。江戸時代以降、大麻生は養蚕が盛んで、桑畑が広がっていました。



秩父鉄道の大麻生駅 (大麻生)

◆ 広瀬

広瀬の瀬とは、川の流れが緩やかで浅く、人間の往来が可能な場所や、川の流れの影響で多くの土砂が広く堆積している場所などを意味しています。



国指定史跡「宮塚古墳」(広瀬)

広瀬には広瀬古墳群が所在し、川の周辺に多くの古墳群が

造られたと推定されます。

その代表例が国指定史跡「宮塚古墳」です。「上円下方墳」という形状で、有力な豪族が埋葬されている可能性がります。古墳の周辺には有力者を示す「山王」という地名が残されています。

◆ 瀬南

瀬南は秩父鉄道と、豊かな森林が広がる荒川大麻生公園との狭間に位置しています。荒川左岸に広がる瀬の南側を意味する古くからの呼称が地名となったものです。

◆ 小島

小島の地名は、荒川による土砂の移動が、土地が盛り上げ



上川原神道香取流棒術 (小島)

小さな「島」のような場所を生み出したことに由来しています。また、荒川の洪水で辺りが浸水した時、塚や雑木林などの小高い場所が、島のように見えたという説もあります。小島は「上川原神道香取流棒術」の発祥の地として知られています。

◆ 赤城町

荒川の土手沿いにある赤城町は、隣接する石原地区の赤城久伊豆神社に関連した地名と推定されます。16世紀、忍城主の成田氏が用水堀(成田用水)の水源として、荒川に水門を作り、近くに久伊豆神社を建立しました。後に洪水被害を受け、社殿を再建する際に、赤城神社が加わり、新たな神社名となりました。昭和時代この神社と荒川の狭間に位置する地域の地名となり、郷土の歴史を今に伝えています。

主な参考資料

『埼玉県地名誌「地名語源辞典」』熊谷デジタルミュージアム

熊谷市立江南文化財センター

山下 祐樹